



Title	対訳ミラー・バーイー（1）
Author(s)	片平, 英里
Citation	印度民俗研究. 2017, 16, p. 43-56
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60690
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

対訳ミラー・バーイー (1)

片平 英里

はじめに

ミーラーバーイー (Mīrā Bāī, 以下ミーラーとする) は、15 世紀にインドの北西部に位置するラージャスターンのメーラト王家に生まれ、熱烈なクリシュナ信者として数々の詩を残した女流詩人である。彼女の両親がヴィシュヌ神を崇拝していたこともあり、幼い頃からヴィシュヌ神の 10 大化身のひとりであるクリシュナに対して愛情を抱いて育った。彼女の詩は、ウツタル・プラデーシュ州にあるマトゥラー近郊のブラジ地方で話されるヒンディー語の文語で方言の一つでもあるブラジ・バーシャーを初めとして、ラージャスターニーやグジャラーティーといった他の方言でも多く残されている。なお、14 世紀以降北インドではブラジ・バーシャーやアワディー方言により、神に対する信仰心をつづったバクティ文学が盛んになった。バクティ文学とは、ヒンドゥー教徒にとって常に心の支えとなるような存在である神々への熱烈な敬愛を、聖者や詩人が自らの言語を通して表現したものである。ミーラーはクリシュナ・バクティを代表する詩人のひとりとしてよく知られている。

以下にミーラー作とされる 5 篇のブラジ・バーシャーの詩をとりあげ、対訳と詩の解説を示す。なお、古ヒンディーのブラジ・バーシャー方言による韻文は、文法が現代標準ヒンディーとは異なり、言語的に解明されていない点も多くあるが、言語学的な解明の一助となるべく、詩の文の各行間には単語の意味や人称・性・数、及び詩の構造を英語で記した。詩の本文の一つ下の行は、単語の意味と人称・性・数を略称で示しており、後記する凡例に基づいている。さらにその下の行は、詩の統語構造を表している。各詩の冒頭の題は、その詩が何について書かれているものかを示しており、Paraśurām Caturvedī (1966) がつけたヒンディー語の題を筆者が日本語に訳したものである。以下に取り上げた詩は、Caturvedī 版の *मीराबाई की पदावली* に収録されている全 202 の詩のうち、5 作品である。

「身内との意見の不一致」

ねえねえ¹⁾ 私は夢の中で憐れみ深い御方 [=クリシュナ] と
結婚しました。

5億6千万のバラート²⁾に加わる人々が来て、花婿はブラジの御
方。

夢の中では、装飾されたアーチ門が取り付けられ、
夢の中で彼は私の手を握りました。

夢の中で私は結婚しました、[そして]揺るぎない幸せを得ました。
ミーラーは山を持ち上げる御方に出会いました、
[夢の中でクリシュナと結婚できたのは]前世で功德を積ん
できて得た幸運です。

この詩では、結婚の様子が描かれている。सुपणा (夢) という単語が4度も繰り返されているという点からも推測できるように、この詩はミーラーの理想的な結婚のあり方を描いていると思われる。2行目の ब्रजनाथ (ブラジの御方) はクリシュナのことを指しており、ミーラーの理想の相手であるクリシュナとの理想の結婚の様子を描いたこの詩は、まさにミーラーの夢であったと言えるだろう。ミーラーは政略結婚によって、義理の家族にいじめられるといった決して幸せとは言えないような我慢の強いられる結婚生活を経験していたため、なおさら理想の結婚を想像していたのかもしれない。詩の最終行にあるように、前世で功德を積み、輪廻転生を繰り返してきたおかげで幸せが得られると願ってやまない様子が描かれている。また、2行目にある छप्पण कोटौ (5億6千万) は、神の数を表している。

1) 女性が女性に対して用いる呼びかけ表現であり、ブラジ・パーシャールで書かれた文学作品において頻出する表現である。

2) 挙式のための楽隊や象、馬などを従え花嫁の家を訪れる花婿及び花婿の親戚縁者、友人、知人たちの一行やその行列のこと(古賀・高橋 2006:931)。

जोगी मत जा मत जा मत जा, पाँड़
yogi/M.SG.VOC not/NEG go/IMP.2SG not/NEG go/IMP.2SG not/NEG go/IMP.2SG, foot/M.PL.LOC
(yogi)NP (not go)VP (not go)VP (not go)VP,
(foot)NP
पहँ मैं तेरी चेरी हौ ॥टेक॥
fall/SBJV.1SG I/NOM your/GEN maidservant/F.SG COP/PRS.1SG
(fall)VP (I)NP ((your)NP maidservant)NP be)VP

प्रेम -भगति को पैड़ो ही न्यारो हमकूँ
love/ -devotion/F.SG PPN.ACC way/M.SG.NOM EMPH special/ADJ me/ACC
((love) -devotion)NP to)PP (way)NP (special)AP ((me)NP
गैल बता जा ।
way/M.SG.ACC show/IMP.2SG
(way)NP show)VP

अगर चँदण की चिता रचाऊँ, अपने
if/CONJ sandalwood/M.SG 's/PPN.GEN funeral pyre/F.SG.ACC create/SBJV.1SG, own/GEN
(if ((sandalwood 's)NP funeral pyre)NP create)VP, ((own)AP
हाथ जला जा ।
hand/M.SG.INS burn/IMP.2SG
(hand)NP (burn)VP

जल बल भई भस्म की ढेरी, अपने
burn/CVB burn/CVB COP/PRF.3SG ashes/F.SG 's/PPN.GEN mound/F.SG, own/GEN
(burn burn)VP (be ((ashes 's)NP mound)NP)VP, ((own)AP
अंग लगा जा ।
body/M.SG.LOC daub/IMP.2SG
(body)NP (daub)VP

मीराँ के प्रभु गिरधर -नागर,
Mira/F.SG 's/PPN.GEN lord/M.SG.NOM mountain-bearer/M.SG-sophisticated/M.SG,
((Mira 's)NP lord)NP (mountain-bearer -(sophisticated)AP)NP,
जोत में जोत मिली जा ॥४६॥
flame/F.SG in/PPN.LOC flame/F.SG.ACC mix/IMP.2SG
((flame)NP in)PP ((flame)NP mix)VP

「懇願」

ヨーギーよ、行くな、行くな、行くな、
私はあなたの御足に ^{ひざまず} 跪 きます、私はあなたのしもべです。
愛のバクティの道は特別です、私に道を示してください。
もし、私が白檀の火葬用の薪を積んだなら、
自らの手で火をつけてください。
私の体が燃えた灰の山となってしまったら、
それをあなたの体に塗りつけてください。
ミーラーの主人は山を持ち上げる偉大な御方、
あなたの炎を私の炎に溶け込ませて下さい。

この詩の一行目にあるように、पाँइ (御足) という言葉は文字通りの足という意味だけではなく、特別な意味を持っている。現代のヒンディー語においても पाँव पड़ना (丁寧に挨拶する、ひれ伏す) という表現があるが、これはインドでの古くからの習慣であり、相手への敬意を表すという意味が込められている。そのためミーラーの詩には、クリシュナへの敬意を表現していると思われる「御足」という単語が散見される。また、「御足」と同様に、「しもべ」という言葉も度々登場する。しもべを表す単語はいくつもあるが、ここでは चेरी という単語が使用されている。

सखी	म्हारो	कानूडो,	कलेजे	की	कोर ॥टेक॥
woman's friend/F.SG.VOC	my/GEN	Krishna/M.SG.NOM,	heart/M.SG	's/PPN.GEN	corner/F.SG.LOC
(woman's friend)NP	((my)NP	Krishna)NP,	((heart	's)NP	corner)NP

मोर	-मुगुट	पीताम्बर	सोहै,	कुण्डल
peacock/	-crown/M.SG.NOM	yellow sash/M.SG.NOM	shine/SBJV.3PL,	ear-ring/M.SG
((peacock)	-crown)NP	(yellow sash)NP	(shine)VP,	((ear-ring
की	झकझोर ।			
's/PPN.GEN	shaking/M.SG.NOM			
's)NP	shaking)NP			

बिन्द्रावन	की	कुंज -गलिन	में,	नाचत
Vrindavan/M.SG	's/PPN.GEN	grove/-alley/F.SG	in/PPN.LOC,	dance/PRS.3SG
((Vrindavan	's)NP	(grove-alley)NP	in)PP,	(dance)VP
नन्दकिसोर ।				
Krishna/M.SG.NOM				
(Krishna)NP				

मीराँ	के	प्रभु	गिरधर	-नागर,
Mira/F.SG	's/PPN.GEN	lord/M.SG.NOM	mountain-bearer/M.SG-sophisticated/M.SG,	
((Mira	's)NP	lord)NP	(mountain-bearer	-(sophisticated)AP)NP,
चरण	-कैवल	चित्तचोर ॥ १ ६ ४ ॥		
foot/M.PL-lotus/M.PL		'heart-stealer'/M.SG		
(foot	-lotus)NP	('heart-stealer')NP		

「子供の遊戯」

ねえねえ、私のクリシュナは心の一部なのです。
クジャクの冠、黄色の飾り帯は美しく、
耳飾りの揺れも美しく見えます。
ヴリンダーヴァンの茂みや路地で、クリシュナは踊っています。
ミーラーの主人は山を持ち上げる偉大な御方、
蓮の御足[を持つ]心の盗人です。

この詩は、クリシュナの外観に関する描写がされている。「クジャクの冠、黄色の飾り帯、耳飾り」は、クリシュナの見かけの特徴として頻繁に描かれる。他の詩に比べてその詩の内容にはこれといった特徴はなく、クリシュナの外観をほめたたえるという典型的な形式を取っている。चित्तचोर（心を盗む人）という表現はクリシュナのことを表す際に、しばしば用いられている。

होरी खेलत हैं गिरधारी ॥टेक॥
 Holi/F.SG.ACC play/PTCP COP.PRS.PL mountain-bearer/M.SG.NOM
 ((Holi)NP playing be)VP (mountain-bearer)NP

मुरली चंग बजत डफ
 flute/F.SG.ACC mouth-harp/M.SG.ACC play/PRS.3SG large tambourine/M.SG.ACC
 ((flute)NP (mouth-harp)NP play (large tambourine)NP
 न्यारो, संग जुवति ब्रजनारी ।
 different/M&F.SG.ACC, with/PPN.INS young/F.PL woman in Braj/F.PL
 (different)AP)VP, (with ((young)AP woman in Braj)NP)PP

चन्दन केसर छिरकत मोहन अपने
 sandalwood/M.SG.ACC saffron/M.SG.ACC sprinkle/PRS.3SG beautiful/ADJ own/GEN
 ((sandalwood)NP (saffron)NP sprinkle)VP ((beautiful)AP (own)AP
 हाथ बिहारी ।
 hand/M.SG.INS Krishna/M.SG.NOM
 hand)NP (Krishna)NP

भरि भरि मूठि गुलाल लाल चहुँ*
 fill/CVB fist/F.SG.LOC red powder/M.SG.ACC Krishna/M.SG.NOM four/ADV
 (fill ((fist)NP red powder)NP)VP (Krishna)NP (four)ADV
 देत सबन पै डारी* ।
 give/PTCP all/PRON on/PPN.LOC throw/SBJV.3SG
 (give)VP₁ ((all)NP on)PP (throw)VP₁

छैल छबीले नवल कान्ह संग
 dashing/M.SG.NOM beautiful/M.SG.NOM young/M.SG.NOM Krishna/M.SG.NOM with/PPN.INS
 ((dashing)AP (beautiful)AP (young)AP (Krishna)NP)NP (with
 स्यामा प्राण पियारी ।
 Radha/F.SG soul/M.SG beloved/M.SG
 (Radha)NP (soul (beloved)AP)NP)PP

गावत चार धमार -राग तँह, दै दै कर
 sing/PRS.3SG motion/M.SG.INS Holi's song/-music/M.SG.ACC there/ADV, give/CVB
 (sings (motion)ADV (Holi's song-music)NP)VP (there)ADV, (give
 करतारी ।
 marking time with claps/F.PL.ACC
 (marking time with claps)NP)VP

फागु जु खेलत रसिक साँवरो बाढ्यो
 Holi/F.SG.ACC - play/PRS.3SG elegant/M.SG.NOM Krishna/M.SG.NOM increase/PRF.3SG
 ((Holi)NP - play)VP ((elegant)AP Krishna)NP (increase)VP
 रस ब्रज भारी ।
 joy/M.SG.NOM Braj/M.SG all over/ADV
 (joy)NP (Braj all over)PP

मीराँ के प्रभु गिरधर -नागर,
 Mira/F.SG 's/PPN.GEN lord/M.SG.NOM mountain-bearer/M.SG-sophisticated/M.SG,
 ((Mira 's)NP lord)NP (mountain-bearer -(sophisticated)AP)NP,
 मोहनलाल बिहारी ॥ १ ७५ ॥
 fascinating/ADJ engaged in love/ADJ
 (fascinating)AP (engaged in love)AP

「ホーリー祭」

ホーリーを楽しんでおられます、山を持ち上げる御方は。
様々な横笛や口琴、大きなタンバリンを演奏しています、
若いブラジの女性たちと一緒に。
クリシュナは白檀やサフランを美しい自らの手でまき散らします。
クリシュナは手にいっぱい赤い粉を取っては、
あたり一面にすべての人々に向かってまき散らします。
魅力的で美しい若い青年クリシュナは
自らの愛しい命であるラーダーと共にいます。
そこで足で拍を取りながら、
手を叩きながら、ホーリーの歌を歌います。
ホーリー祭で優美なクリシュナは遊び、
ブラジいっぱい喜びは大いに高まりました。
ミーラーの主人は山を持ち上げる偉大な御方、
魅惑的な遊び人なのです。

この詩の中では、ホーリー祭に関する描写がされている。ホーリー祭とは、インドで春に行われる祭りのことであり、色とりどりの水や粉をお互いにかけて一年の穢れを浄めるとともに、新しい年の到来が祝われる。特に、ブラジ地方ではクリシュナの祭りとして盛んに祝われる。そのため、この詩の3文目、4文目にも「白檀」、「サフラン」、「赤い粉」といった、色に関する表現が見られる。人々が音楽に合わせて、歌を歌ったり手を叩いたりしてホーリー祭を楽しむ様子が描かれているが、その中でもクリシュナが格段に目立っている描写が随所に見て取れる点は、いかにもミーラーらしい表現と言えるだろう。

*現代ヒンディー語における、चारों ओरの意味であると思われる。

* डारी は単独で用いられているように見えるが、 डारि देत という複合動詞である。 डारी と देत は離れた状態で用いられているため、統語構造を示す際に複合動詞であることが分かりやすいよう、便宜上 VP₁ という記号を使用した。なお、 डारी は脚韻のため語末で長母音化している。

देखत स्याम हँसे सुदामां कूं, देखत
 see/PTCP Krishna/M.SG.NOM laugh/PRS.3SG Sudāmā/M.SG to/PPN.ACC, see/PTCP
 (seeing)VP (Krishna)NP (laugh)VP ((Sudāmā)NP to)PP, (seeing)VP
 स्याम हँसे ॥टेक॥
 Krishna/M.SG.NOM laugh/PRS.3SG
 (Krishna)NP (laugh)VP

फाटी तो फूलडियाँ, पाँव उभाणे, चलते
 tear/PRF.3SG then/ADV shoe/F.PL.NOM, foot/M.PL.NOM naked/ADJ, walk/PTCP
 (tear)VP (then)ADVP (shoe)NP, (foot)NP (naked)AP, (walking)VP
 चरण धसे ।
 foot/M.PL.NOM injure/PRS.3PL
 (foot)NP (injure)VP

बाँलपणे -का -मित सुदामा, अब क्यूँ दूर
 childhood/M.SG-'s/PPN.GEN-friend/M.SG Sudāmā/M.SG.VOC now/ADV why/Q far/LOC
 ((childhood -'s)NP -friend)NP (Sudāmā)NP (now)ADVP (why)ADVP (far)ADVP
 बसे ।
 inhabit/PRS.2SG
 (inhabit)VP

कहा भावज ने भेंट पठाई, तन्दुल तीन
 what/Q brother's wife/F.SG.NOM PPN gift/F.SG.ACC send/PRF.3SG, rice/M.SG.NOM 3/NUM
 (what)NP ((brother's wife)NP ERG)NP ((gift)NP send)VP, (rice)NP ((3)NP
 पसे ।
 fist/F.SG.LOC
 fist)NP

कित गई प्रभु मोरी टूटी टपरिया,
 where/Q go/PRF.3PL lord/M.SG.VOC my/GEN broken/F.SG.NOM hut/F.SG.NOM,
 (where)ADVP (go)VP (lord)NP ((my)NP (broken)AP hut)NP,
 हीरा, मोती, लाल कसे ।
 diamond/M.SG.NOM, pearl/M.SG.NOM, ruby/M.SG.NOM stuck/ADJ
 (diamond)NP, (pearl)NP, (ruby)NP (stuck)VP

कित गई प्रभु मोरी गउवन बछिया, द्वार
 where/Q go/PRF.3PL lord/M.SG.VOC my/GEN cow/F.SG.NOM calf/M.SG.NOM, door/M.SG
 (where)ADVP (go)VP (lord)NP ((my)NP ((cow)NP (calf)NP)NP), ((door)NP
 बिच हसती फँसे ?
 in/PPN.LOC elephant/M.SG.NOM to be tied/PRF.3SG
 in)PP (elephant)NP (to be tied)VP

मीराँ के प्रभु हरि -अविनासी, सरणे
 Mira/F.SG 's/PPN.GEN lord/M.SG.NOM Viṣṇu/M.SG-everlasting/M.SG, shelter/F.SG.LOC
 ((Mira 's)NP lord)NP (Viṣṇu -(everlasting)AP)NP, (shelter
 तोरे बसे ॥१८७॥
 your/GEN inhabit/SBJV.1SG
 (your)NP)NP (inhabit)VP

「スダーマー」

クリシュナは[幼馴染の]スダーマーを見るやいなや
微笑みました、クリシュナは見るやいなや微笑みました。
[スダーマーの]靴が破れて足がおき出しになっています、
歩いてきたので、足が傷だらけになっています。
「幼馴染のスダーマーよ、今ではどうして遠くに住んでいるのだ
い。
兄嫁は何を私に贈り物としてくれましたか、
[スダーマーが手に持っているものといえば]3握りの米。
「私の薫ぶきの家はどこに行ったのだろうか、ダイヤモンド、
真珠やルビーがはめ込まれています。
主よ、私の牛や子牛はどこにいったのだろうか、
戸口に象が繋がられています。」
ミラーの主人は不滅のヴィシュヌ神で、
[私は]あなたのご加護のもとにあります。

この詩は、タイトルにもあるように、スダーマーの話が中心となっている。スダーマーは、クリシュナの幼な友達であった学友で、非常に貧しいブラーフマンだったとされている。そのため、スダーマーの妻（この詩の中では、4文目に भावज 「兄嫁」という単語でクリシュナから呼ばれている）は、クリシュナから何か物をもらってくるように言い、夫スダーマーを送り出した。クリシュナに会ったものの、スダーマーは手ぶらで帰されて意気消沈していたが、実は豪華な屋敷を与えられていた、という話が下地になっており、多くの詩人たちに好まれている逸話である。読者がストーリーを知っていることを前提として、ほとんど説明なしに、ミラーはそのふたりの様子を描いている。

凡例

1	first person	M	masculine
2	second person	NEG	negative
3	third person	NUM	number
ACC	accusative	NOM	nominative
ADJ	adjective	NP	noun phrase
ADV	adverb(ial)	PL	plural
ADVP	adverb(ial) phrase	PP	post-positional phrase
AP	adjective phrase		
COP	copula	PPN	post-position
CONJ	conjunction	PRS	present
CVB	converb	PRF	perfect
EMPH	emphasis	PRON	pronoun
ERG	ergative	PTCP	participle
F	feminine	Q	question
GEN	genitive	SBJV	subjunctive
IMP	imperative	SG	singular
INS	instrumental	VOC	vocative
LOC	locative	VP	verb phrase

参考文献

- Alston, A.J. 1980. *The devotional poems of Mīrābāī*, Delhi: Motilal Banarsidass.
- Callewaert, Winand M. 2009, *Dictionary of Bhakti*, New Delhi: D.K Printworld.
- Snell, Rupert. 1991. *The Hindi Classical Tradition: A Braj Bhāṣā Reader*, London: School of Oriental and African studies.
- चतुर्वेदी, परशुराम. 1966. *मीराबाई की पदावली*, 13 संस्करण, प्रयाग: हिन्दी साहित्य सम्मेलन.
- 古賀勝郎 高橋明 2006 『ヒンディー語＝日本語辞典』大修館書店